

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-279255

(P2009-279255A)

(43) 公開日 平成21年12月3日(2009.12.3)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 L 13/254 (2006.01)	A 4 7 L 13/254	3 B 0 7 4
A 4 7 L 13/16 (2006.01)	A 4 7 L 13/16	Z
A 4 7 L 13/20 (2006.01)	A 4 7 L 13/20	A
	A 4 7 L 13/20	C

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2008-135712 (P2008-135712)	(71) 出願人	596060594
(22) 出願日	平成20年5月23日 (2008. 5. 23)		株式会社サンコー
			和歌山県海南市大野中 7 1 5
		(74) 代理人	100078868
			弁理士 河野 登夫
		(72) 発明者	角谷 勝義
			和歌山県海南市阪井 1 6 3 4
		F ターム (参考)	3B074 AA02 AB04 AC03 BB03

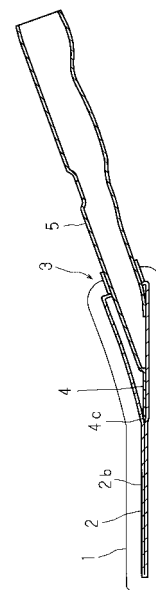
(54) 【発明の名称】 清掃具

(57) 【要約】

【課題】 袋体に挿入された袋支持体の袋体からの抜け止めと袋支持体による袋体の支持とを適切に実現することができる清掃具を提供する。

【解決手段】 表面に清掃部材 1 を設けた袋体 2 と、袋体 2 に対して挿脱自在な袋支持体 3 とを備える。袋支持体 3 は、可撓性を有し袋体 2 の内部に挿入される板 4 と板 4 の端部に連設された柄 5 とを有し、板 4 は袋体 2 に挿入される方向に細長く、該方向の一方端が開放されたスリット形状の係合部 4 c を有する。袋体 2 は挿入された袋支持体の係合部 4 c と係合する被係合部 2 b を有し、被係合部 2 b は袋支持体 3 が挿入される方向に延在するように袋体 2 の対向する内側部分同士を結合（縫合）したものである。

【選択図】 図 7



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

表面に清掃部材を設けた袋体と、該袋体に対して挿脱自在な袋支持体とを備えた清掃具において、

前記袋支持体は前記袋体に挿入される方向に細長く、該方向の一方端が開放されたスリット形状の係合部を有し、前記袋体は挿入された前記袋支持体の係合部と係合する被係合部を有していることを特徴とする清掃具。

【請求項 2】

前記係合部の内縁部が凹凸状をなすことを特徴とする請求項 1 に記載の清掃具。

【請求項 3】

前記被係合部は前記袋支持体が挿入される方向に延在していることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の清掃具。

【請求項 4】

前記被係合部は、前記袋体の対向する内側部分同士を結合したものであることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の清掃具。

【請求項 5】

前記袋体は、入口縁部の内面の対向する位置に面ファスナー部材を設けてあることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の清掃具。

【請求項 6】

前記袋支持体は板状部分を有することを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の清掃具。

【請求項 7】

前記板状部分の少なくとも一面に突起を設けてあることを特徴とする請求項 6 に記載の清掃具。

【請求項 8】

前記袋支持体は、可撓性を有し、前記袋体の内部に挿入される板と、該板の端部に連設された柄とを有することを特徴とする請求項 6 又は 7 に記載の清掃具。

【請求項 9】

前記袋体は表面の一部又は全体に前記清掃部材を設けてあることを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の清掃具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、例えば浴室の床面、天井、壁面等を清掃するための清掃具に関する。

【背景技術】

【0002】

清掃部材としてナイロン製の繊維材を表面に縫製した袋体の内部に棒状の袋支持体を挿入し、袋体の入口部分を紐で袋支持体に縛り付けて抜けないようにしたモップが公知である（特許文献 1 参照）。また、少なくとも一方の面が汚れ拭き取りのシート面である扁平形状の袋体の内部に扁平形状の袋支持体を挿入し、袋体の入口部分を弾性伸縮性の部材にするとともに、袋支持体の挿入部の幅を袋体の入口の開口幅より広く、袋体の内部の幅より狭くして抜けを防止するようにした汚れ拭き取り具が公知である（特許文献 2 参照）。

【特許文献 1】特開平 8－2 6 6 4 5 5 号公報

【特許文献 2】特開平 1 0－3 2 8 1 0 9 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

特許文献 1 に記載した清掃具では、紐で縛るため抜け止めは確実であるが紐で縛る操作が面倒である。特許文献 2 に記載した清掃具では、袋体に挿入した袋支持体を強い力で引っ張った場合に、弾性伸縮部材である袋体の入口部分が袋支持体の挿入部によって押し拡

10

20

30

40

50

げられて抜けるおそれがある。

【0004】

特許文献1、2に記載した清掃具では、袋体の内面部分は挿入された袋支持体に対して相対移動することができるため、清掃具に大きな外力が加わった場合に、袋体の内面部分に対する袋支持体の支持位置がずれ良好な清掃作用をしなくなるおそれがあり、また、袋体に無理な力が働いてしわがより、袋体が損傷するおそれもある。

【0005】

本発明は、上述したような事情に鑑みてなされたものであり、主たる目的は、袋体に挿入された袋支持体の袋体からの抜け止めと袋支持体による袋体の支持とを適切に実現することができる清掃具を提供することにある。

10

【0006】

また、他の目的は、袋支持体の抜け止め及び袋体の支持の効果を高めた清掃具を提供することにある。

【0007】

また、他の目的は、袋支持体の抜け止め及び袋体の支持を簡易な構造にて実現することができる清掃具を提供することにある。

【0008】

また、他の目的は、簡単な操作で清掃効果を高めることができる清掃具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

20

【0009】

第1発明に係る清掃具は、表面に清掃部材を設けた袋体と、該袋体に対して挿脱自在な袋支持体とを備えた清掃具において、前記袋支持体は前記袋体に挿入される方向に細長く、該方向の一方端が開放されたスリット形状の係合部を有し、前記袋体は挿入された前記袋支持体の係合部と係合する被係合部を有していることを特徴とする。

【0010】

第1発明にあつては、表面に清掃部材を設けた袋体に袋支持体を挿入すると、袋体の被係合部が袋支持体の細長いスリット形状の係合部に対して開放された一方端から入り込み、袋支持体の係合部に係合され、袋体の被係合部は袋支持体の係合部による規制を受けて、袋支持体の動きに追従する。袋体に挿入した袋支持体を袋体から離脱させる場合は、スリット形状の係合部に係合されている袋体の被係合部を係合による抵抗に抗してスリット形状の開放された一方端まで移動させ、スリット形状から外して、袋支持体の係合部による係合を解除する。

30

【0011】

第2発明に係る清掃具は、前記係合部の内縁部が凹凸状をなすことを特徴とする。

第2発明にあつては、袋支持体の係合部のスリット形状の内縁部がなす凹凸により、袋体の被係合部が袋支持体の係合部に対して移動する場合の係合による抵抗が増加する。

【0012】

第3発明に係る清掃具は、前記被係合部は前記袋支持体が挿入される方向に延在していることを特徴とする。

40

第3発明にあつては、袋支持体が挿入される方向に延在した袋体の被係合部が袋支持体の挿入される方向に細長いスリット形状の係合部と係合するので、袋体の被係合部と袋支持体の係合部とが係合し合う範囲が広くなり、係合力が強くなる。

【0013】

第4発明に係る清掃具は、前記被係合部は、前記袋体の対向する内側部分同士を結合したものであることを特徴とする。

第4発明にあつては、袋体の対向する内側部分同士を結合した結合構造で被係合部が形成されるので、被係合部用に別途部材を用意する必要がない。

【0014】

第5発明に係る清掃具は、前記袋体は、入口縁部の内面の対向する位置に面ファスナー

50

部材を設けてあることを特徴とする。

第5発明にあっては、袋体に袋支持体を挿入した後、袋体の入口縁部の内面の対向する位置に設けた面ファスナー部材を結合させて袋体の入口を塞ぐことができる。

【0015】

第6発明に係る清掃具は、前記袋支持体は板状部分を有することを特徴とする。

第6発明にあっては、袋支持体の板状部分を清掃対象物の表面に沿う状態にして、板状部分で支持された袋体の表面の清掃部材が清掃対象物の表面に接触する面積を大きくすることができる。

【0016】

第7発明に係る清掃具は、前記板状部分の少なくとも一面に突起を設けてあることを特徴とする。

第7発明にあっては、袋支持体の板状部分の少なくとも一面に設けた突起が袋体の内側部分に食い込み、袋体の内側部分の移動を規制する袋支持体の規制力が大きくなる。

【0017】

第8発明に係る清掃具は、前記袋支持体は、可撓性を有し、前記袋体の内部に挿入される板と、該板の端部に連設された柄とを有することを特徴とする。

第8発明にあっては、可撓性を有する板の端部に連設された柄を手で持ち、袋体の内部に挿入した板で支持された袋体表面の清掃部材を清掃対象物の表面に接触させて清掃する場合に、手で押す力を強くして板を大きく撓ませると袋体表面の清掃部材が清掃対象物の表面に当たる力が大きくなる。手で押す力を弱くして板の撓みを小さくすると、袋体表面の清掃部材が清掃対象物の表面に当たる力が小さくなる。

【0018】

第9発明に係る清掃具は、前記袋体は表面の一部又は全体に前記清掃部材を設けてあることを特徴とする。

第9発明にあっては、袋体の表面の一部に清掃部材を設けた場合は、袋体表面の一部にある清掃部材を清掃対象物の表面に接触させる単純な操作で適切な清掃ができる。袋体の表面の全体に清掃部材を設けた場合は、清掃対象物の表面に接触する袋体表面の清掃部材の部位を移動させることで、単一の清掃具で清掃対象物の広い面積を清掃することができる。また汚れがひどい場合でも単一の清掃具で仕上げ清掃まで行うことができる。

【発明の効果】

【0019】

第1発明によれば、袋支持体を袋体から離脱させるためには、スリット形状の係合部に係合されている袋体の被係合部を係合による抵抗に抗してスリット形状の開放された一方端まで移動させてスリット形状から外し、袋支持体の係合部による係合を解除する必要があるため、袋支持体は袋体から抜け難くなる。また清掃操作のために袋支持体を動かすと袋支持体の係合部に係合された袋体の被係合部は袋支持体の動きに従って、袋体は袋支持体と一体的な動きをし、袋体の内面部分に対する袋支持体の支持位置のずれが抑制される。その結果、袋体に挿入された袋支持体の袋体からの抜け止めと袋支持体による袋体の支持とを適切に実現することができる清掃具が提供される。

【0020】

第2発明によれば、袋支持体の係合部の内縁部の凹凸によって袋体の被係合部が袋支持体の係合部から受ける係合による抵抗が増加するので、袋支持体の抜け止め及び袋体の支持の効果を高めた清掃具が提供される。

【0021】

第3発明によれば、袋支持体が挿入される方向に延在した袋体の被係合部によって、袋体の被係合部と袋支持体の係合部とが係合し合う範囲が広くなり、係合力が強くなるので、袋支持体の抜け止め及び袋体の支持の効果を高めた清掃具が提供される。

【0022】

第4発明によれば、袋体の対向する内側部分同士を結合した構造によって被係合部が形成されるので、被係合部用に別途部材を用意する必要もなく、袋支持体の抜け止め及び袋

10

20

30

40

50

体の支持を簡易な構造にて実現することができる清掃具が提供される。

【0023】

第5発明によれば、袋支持体が挿入された袋体の入口を入口縁部の内面位置に設けた面ファスナー部材によって塞ぐので、袋支持体の抜け止めの効果を高めた清掃具が提供される。

【0024】

第6発明によれば、袋支持体の板状部分を清掃対象物の表面に沿う状態にすることにより、袋体表面の清掃部材が清掃対象物の表面に接触する面積が大きくなるので、簡単な操作で清掃効果を高めることができる清掃具が提供される。

【0025】

第7発明によれば、袋支持体の板状部分の少なくとも一面に設けた突起が袋体の内側部分に食い込んで、袋体の内側部分の移動を規制する袋支持体の規制力が大きくなるので、袋支持体の抜け止め及び袋体の支持の効果を高めた清掃具が提供される。

【0026】

第8発明によれば、袋体の内部に挿入した可撓性を有する板の面で支持された袋体表面の清掃部材が清掃対象物の表面に接触するときの接触力を、板の端部に連設された柄を持つ手の操作によって板の撓みを変化させて調整することができるので、簡単な操作で清掃効果を高めることができる清掃具が提供される。

【0027】

第9発明によれば、袋体の表面の一部に清掃部材を設けた清掃具を用いる場合には、単純な操作で適切な清掃ができ、また、袋体の表面の全体に清掃部材を設けた清掃具を用いる場合には、単一の清掃具で広い面積を清掃し、汚れがひどい場合でも仕上げ清掃まで行うことができるので、簡単な操作で清掃効果を高めることができる清掃具が提供される。

【発明を実施するための最良の形態】

【0028】

以下、本発明に係る清掃具の実施の形態1及び2を図面に基づいて説明する。

実施の形態1

図1は本発明に係る実施の形態1の清掃具の外観を示す斜視図、図2は実施の形態1の袋支持体の平面図、図3は同袋支持体の底面図、図4は図2のI V-I V線における断面図、図5は実施の形態1の袋体の平面断面図、図6は図5のV I-V I線における断面図、図7は実施の形態1の清掃具の構造を示す断面図、図8は同清掃具の側面図、図9は同清掃具の一部構成を示す図である。

【0029】

実施の形態1の清掃具は、表面に清掃部材として繊維材1を設けた袋体2と、袋体2に対して挿脱自在な袋支持体3とを備えている。袋支持体3は、可撓性を有し、袋体2の内部に挿入される板4と、板4の端部に連設された柄5とを有している。袋支持体3はポリプロピレン樹脂で作製してある。柄5の端部に対して脱着自在な延長具6が設けられている。

【0030】

板4は略矩形状で4つの角部が丸められ、柄5が連設された側の辺4aでの板の横幅よりも辺4aに対向する辺4bでの板の横幅が狭くなっている。板4は辺4aから辺4bに向かう方向に細長いスリット4cを有し、スリット4cの辺4b側の一端部は開放されている。スリット4cは一定の幅d1を有するが、辺4bの端部側部分ではd1より広い幅にしてある。スリット4cには、辺4bの端部側部分に幅が急激に大きくなる段差を設け、凸部k1を形成してある。

【0031】

板4の底面には、複数の突起4d、4d、4d、4dが互いに距離を隔てて設けてある。図3には、スリット4cの両側箇所に夫々2個の突起4d、4dを設け、板4のスリット4cと平行な辺の外周部に夫々3個の突起4d、4dを設けた例を示す。各突起4dは先端部が半球状をなし、先端部を基端部に対して辺4a側に傾けてある。板4の底面には

10

20

30

40

50

、スリット 4 c の両側箇所突起 4 d、4 d と、スリット 4 c と平行な両辺の外周部の突起 4 d、4 d との間に、スリット 4 c と平行な補強用のリブ 4 e がスリット 4 c と直交する方向に距離を隔てて 4 つ設けてある。各リブ 4 e は辺 4 b に近い側で幅が狭く高さが低く形成してあるので、板 4 の剛性は辺 4 a 側が辺 2 b 側より大きくなる。

【0032】

繊維材 1 はポリエステル製のマイクロファイバーで構成され、袋体 2 の表面の全体に設けてある。袋体 2 はポリエステル製の布で作製してある。直径が約 5 mm、長さが 20 mm 程度の繊維材 1 が袋体 2 の表面から突出するように繊維材 1 を袋体 2 にループ状に縫い付けてある。袋体 2 は袋支持体 3 が挿脱される入口 2 a を有し、入口 2 a と対向する側から入口 2 a に向かって所定長さの袋体 2 の内側部分を連続的に縫い合わせた縫合部 2 b を形成している。縫合部 2 b の縫合幅 d 2 は袋支持体 3 のスリット 4 c の幅 d 1 より広くしてある。

10

【0033】

袋体 2 の入口 2 a の開口縁には帯体 2 c が環状に設けてあり、帯体 2 c の対向する位置に面ファスナー部材 7、7 が付設してある。面ファスナー部材 7、7 は袋体 2 に挿入された柄 5 の両側に位置するように一対設けてある。図 8 (a) は各対の面ファスナー部材 7、7 を結合させないで袋体 2 の入口 2 a を開いた状態を示し、図 8 (b) は各対の面ファスナー部材 7、7 を結合させて袋体 2 の入口 2 a を閉じた状態を示す。

【0034】

柄 5 は板 4 との連設箇所から後方側に径が太くなる筒体であり、可撓性を有しない。柄 5 は板 4 の面に対して底面とは反対側に所定角度傾けて板 4 の辺 4 a の中央箇所に連設してある。柄 5 の筒壁には、延長具 6 と連結するときに延長具 6 の先端部に設けた突片 6 a が嵌合する係止孔 5 a が設けてある。

20

【0035】

延長具 6 はアルミニウム製の 3 つの分割可能な筒体からなり、3 つの筒体は内部を通る弾性紐 6 c によって分離しないように保持され、各分割箇所各筒体の端部同士が嵌合装着・離脱可能にしてある。柄 5 と連結される筒体の先端部はポリプロピレン樹脂で作製され、突片 6 a を設けてある。延長具 6 を柄 5 の端部に差し込むと、延長具 6 の先端部の突片 6 a が柄 5 の係止孔 5 a に嵌まり、延長具 6 が柄 5 から抜けられない状態で連結される。逆に係止孔 5 a に嵌まった突片 6 a を押し込んで嵌合を解除した状態で延長具 6 を柄 5 から引き出すことによって延長具 6 が柄 5 から分離される。延長具 6 の後端部にはポリプロピレン樹脂製の把持部 6 b が設けてある。

30

【0036】

以上の構成において、板の幅が狭い辺 4 b を先にして板 4 を袋体 2 の入口 2 a から内部に挿入すると、袋体 2 の縫合部 (被係合部) 2 b が袋支持体 3 の挿入される方向に細長いスリット (係合部) 4 c に該スリット 4 c の辺 4 b 側の開放された一方端から入り込み、スリット 4 c に係合される。袋体 2 の縫合部 2 b はスリット 4 c の方向に延在し、細長いスリット 4 c の全体によって規制されているので、袋体 2 の縫合部 2 b とスリット 4 c との係合範囲が広くなり、袋支持体 3 を動かすと袋体 2 はその動きに良好に追従する。また袋体 2 の縫合部 2 b はスリット 4 c の端部側部分に設けた凸部 k 1 による規制も受ける。袋体 2 に挿入した袋支持体 4 を袋体 2 から離脱させる場合は、板 4 のスリット 4 c に係合されている袋体 2 の縫合部 2 b を係合による抵抗に抗してスリット 4 c の辺 4 b 側の開放端まで移動させ、スリット 4 c から外すことで係合が解除される。

40

【0037】

図 10 は実施の形態 1 の清掃具の使用状態を示す斜視図、図 11 は別の使用状態を示す斜視図である。図 10 は柄 5 に延長具 6 を連結した清掃具で浴室の天井を清掃する状態である。図 11 は延長具 6 を外した清掃具でバスタブの内面を清掃する状態である。マイクロファイバーからなる繊維材 1 は吸水性及び発散性に優れているので、浴室の天井、横壁等の水滴を拭き取ってカビの発生を有効に防止することができる。

【0038】

50

実施の形態 2

図 1 2 は本発明に係る実施の形態 2 の清掃具を示す一部断面正面図、図 1 3 は実施の形態 2 の袋支持体の平面図、図 1 4 は図 1 3 の X I V - X I V 線における断面図、図 1 5 は実施の形態 2 の袋支持体の底面図である。

【0039】

実施の形態 2 の清掃具は、実施の形態 1 の清掃具と基本構成は同一である。表面に繊維材 1 を設けた袋体 1 0 と、袋体 1 0 に対して挿脱自在な袋支持体 1 1 とを備えている。袋支持体 1 1 は、可撓性を有し、袋体 1 0 の内部に挿入される略矩形の板 1 2 と、板 1 2 の端部に連設された柄 1 3 とを有している。尚、図示はしないが、袋体 1 0 は、実施の形態 1 の清掃具と同様に、袋支持体 1 1 が挿脱される入口 1 0 a と、袋支持体 1 1 が挿脱される方向に所定長さの袋体 1 0 の内側部分を縫い合わせた縫合部 1 0 b とを有している。

【0040】

次に、実施の形態 2 の清掃具は袋支持体の形状、構造が実施の形態 1 の清掃具と異なるので、その相違点について説明する。

板 1 2 は柄 1 3 が連設された側の辺 1 2 a から対向する辺 1 2 b に向かう方向に細長いスリット 1 2 c を有し、スリット 1 2 c は辺 1 2 b 側の端部が開放されている。スリット 1 2 c の幅は辺 1 2 a の側よりも辺 1 2 b の側で広がっている。スリット 1 2 c の内縁部は複数個の三角形の切り欠き部分を有し、凹凸状をなしている。この凹凸状部分によってスリット 1 2 c 内に係合されている袋体 1 0 の縫合部（被係合部）1 0 b に対する係合作用を高めている。

板 1 2 の底面には、スリット 1 2 c と、スリット 1 2 c と平行な両辺との間に、スリット 1 2 c と平行な補強用のリブ 1 2 d が 2 つ設けてある。各リブ 1 2 d は辺 1 2 b に近い側で幅が狭く高さが低く形成してあるので、板 1 2 の剛性は辺 1 2 a 側が辺 1 2 b 側より大きくなる。

【0041】

柄 1 3 は可撓性を有する板体であり、板 1 2 の面と平行に板 1 2 の辺 1 2 a の中央箇所 に連設してある。柄 1 3 の板厚は板 1 2 との連設部の反対側で厚く形成してある。従って、実施の形態 2 の清掃具を清掃対象物に押し当てる場合に、板 1 2 だけでなく、柄 1 3 の板 1 2 との連設部に近い部分も撓むので、小さい力で清掃部材が清掃対象物に当たる接触圧の微妙な調整が可能となる。

【0042】

柄 1 3 には把持部 1 4 a を備えた棒体 1 4 を連結されている。柄 1 3 の端部に一對の係合片 1 3 b, 1 3 b が設けられ、棒体 1 4 の先端部には、柄 1 3 の各係合片 1 3 b と係合する係合孔 1 4 b, 1 4 b が設けてある。棒体 1 4 の先端部を柄 1 3 の端部に差し込むと、柄 1 3 の各係合片 1 3 b が棒体 1 4 の各係合孔 1 5 b に嵌まり、棒体 1 4 が柄 1 3 から抜けない状態で連結される。

【0043】

上記実施の形態 1, 2 では、繊維材 1 を袋体 2, 1 0 の表面の全体に設けたが、袋体 2, 1 0 の表面の一部、例えば、袋支持体 3, 1 1 の板 4, 1 2 の一方の面に対応する部分にだけ繊維材 1 を設けてもよい。

【0044】

上記実施の形態 1, 2 では、袋体 2, 1 0 の内側部分を縫い合わせた縫合部 2 b, 1 0 b によって被係合部を形成したが、例えば袋体を不織布で作製した場合には、袋体の内側部分を熱接合して被係合部を形成してもよい。また、袋体とは別の部材を袋体の内側部分と結合させて設けて被係合部を形成してもよい。

【図面の簡単な説明】

【0045】

【図 1】本発明に係る実施の形態 1 の清掃具の外観を示す斜視図である。

【図 2】実施の形態 1 の袋支持体の平面図である。

【図 3】実施の形態 1 の袋支持体の底面図である。

【図 4】図 2 の I V - I V 線における断面図である。

【図 5】実施の形態 1 の袋体の平面断面図である。

【図 6】図 5 の V I - V I 線における断面図である。

【図 7】実施の形態 1 の清掃具の構造を示す断面図である。

【図 8】実施の形態 1 の清掃具の側面図である。

【図 9】実施の形態 1 の清掃具の一部構成を示す図である。

【図 10】実施の形態 1 の清掃具の使用状態を示す斜視図である。

【図 11】実施の形態 1 の清掃具の別の使用状態を示す斜視図である。

【図 12】実施の形態 2 の清掃具を示す一部断面正面図である。

【図 13】実施の形態 2 の袋支持体の平面図である。

10

【図 14】図 13 の X I V - X I V 線における断面図である。

【図 15】実施の形態 2 の袋支持体の底面図である。

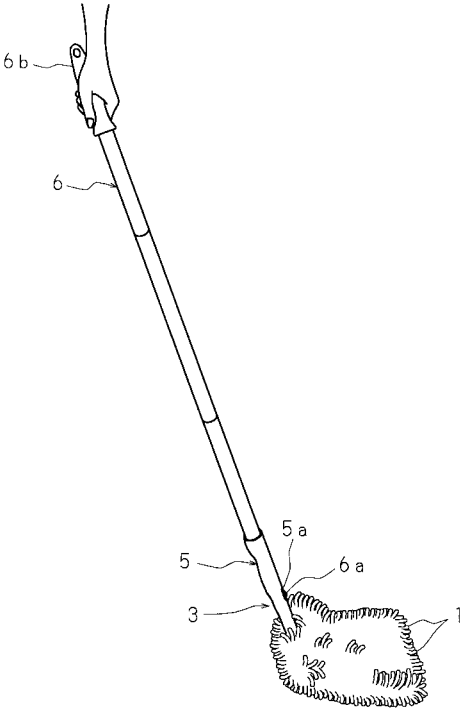
【符号の説明】

【0046】

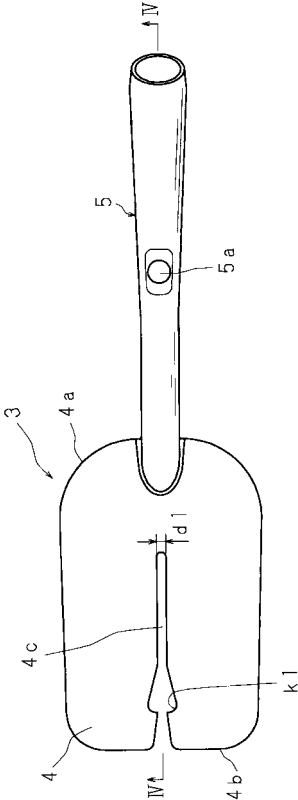
- 1 繊維材（清掃部材）
- 2 袋体
- 2 b 縫合部（被係合部）
- 3 袋支持体
- 4 板（板状部分）
- 4 c スリット（係合部）
- 4 d 突起
- 5 柄
- 7 面ファスナー部材
- 10 袋体
- 10 b 縫合部（被係合部）
- 11 袋支持体
- 12 板（板状部分）
- 12 c スリット（係合部）
- 13 柄

20

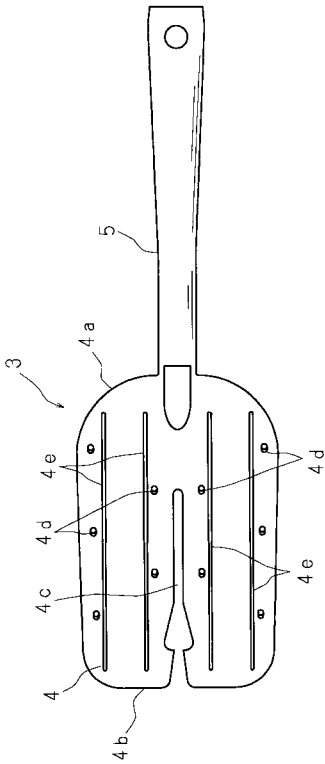
【図 1】



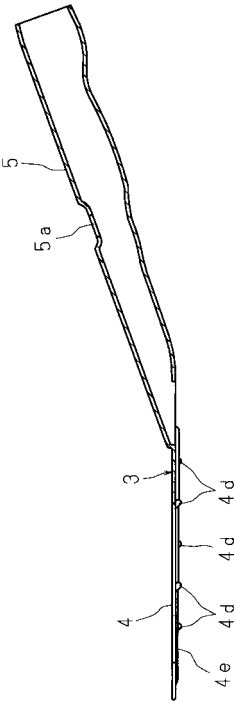
【図 2】



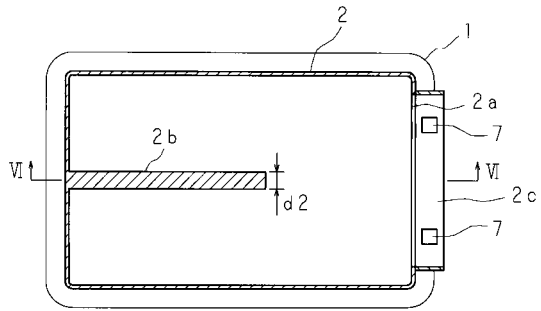
【図 3】



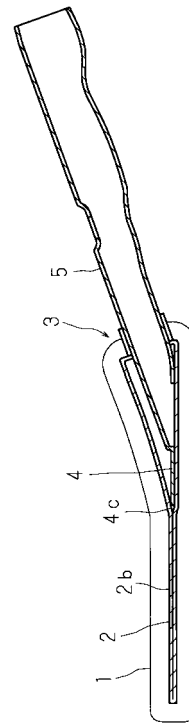
【図 4】



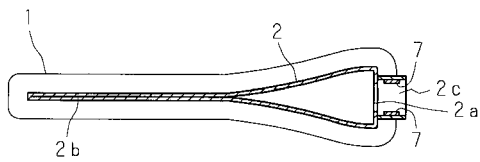
【図 5】



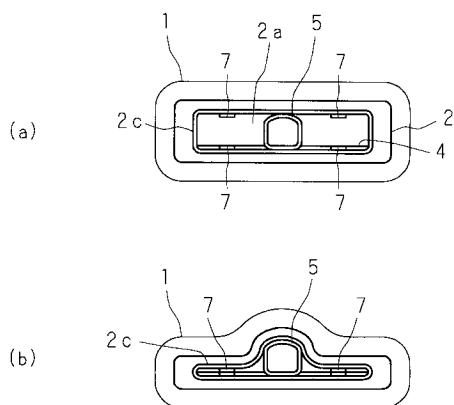
【図 7】



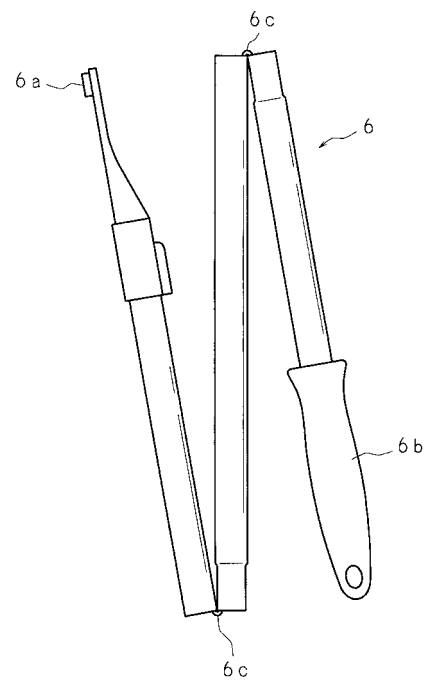
【図 6】



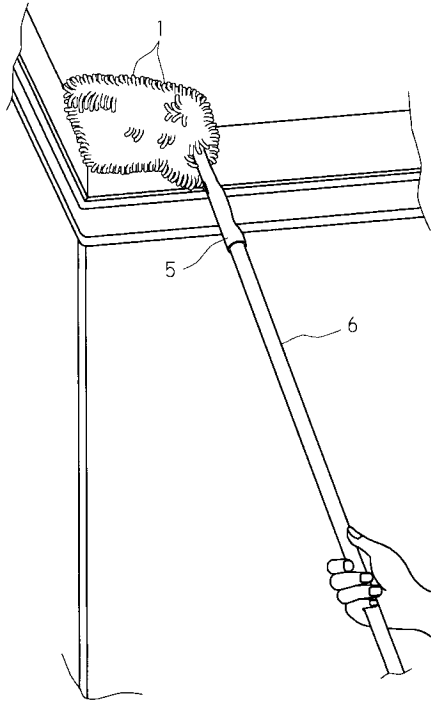
【図 8】



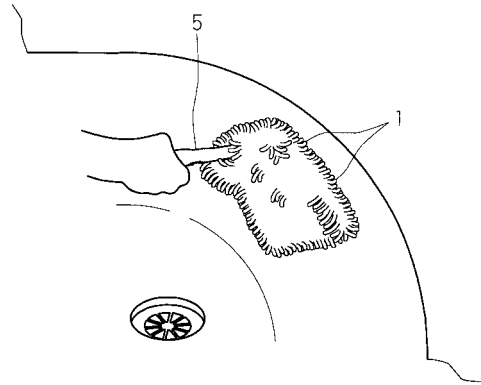
【図 9】



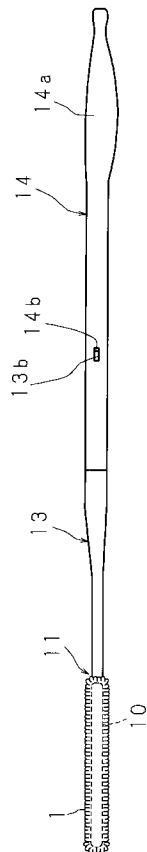
【図 10】



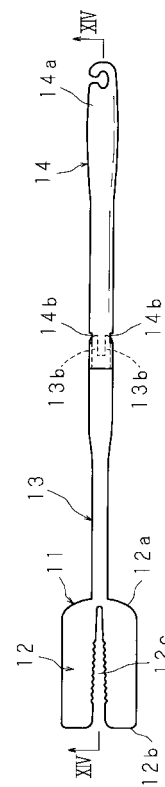
【図 11】



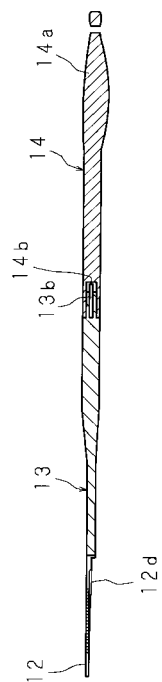
【図 12】



【図 13】



【図 1 4】



【図 1 5】

